令和4年度　研修会・学会等参加実績

1. 兵庫県看護協会主催研修会

研　修　会	開催日	参加者
ファーストレベル　Ⅱ期	6/23～7/29	1
ファーストレベル　Ⅲ期	1/11～2/3	1
セカンドレベル	10/26～12/9	1
実地指導者研修（WEB）	6/14・7/12 8/26・2/20	1
これだけは知っておきたい感染症の基礎知識と予防対策	9/12	3
看護実践における倫理　基礎編 ー倫理を意識した行動をとるためにー（WEB）	10/19	3
楽しく学ぼう循環器ー心不全患者の理解と看護ー	12/2	2
高齢者の暮らしを支えるケア 1）検査所見の見方・捉え方（WEB）	6/24	3
高齢者の暮らしを支えるケア 2）感染管理（WEB）	7/4	3
高齢者の暮らしを支えるケア 3）薬物療法と療養支援（WEB）	8/31	3
高齢者の暮らしを支えるケア 4）摂食嚥下障害ケア（WEB）	11/10	3
高齢者の暮らしを支えるケア 5）スキンテアと褥瘡予防	12/15	3
高齢者の暮らしを支えるケア 6）認知症ケア	1/17	3
看護研究はじめの一歩（WEB）	12/9	2
感染対策エキスパート養成研修 ベーシックコースⅠ（WEB/会場）	9/26・10/3 1/10	2
感染対策エキスパート養成研修 ベーシックコースⅡ（WEB/会場）	8/10・8/23	1
専門看護師の実践から学ぶ!　看護場面で遭遇する倫理的ジレンマへの対応(WEB)	10/4	3
チームで取り組む倫理的問題への対応 ー倫理的意思決定への支援ー	1/18	1
人生最終段階への意思決定part2 ーコミュニケーションスキル向上のためにー（WEB）	9/14	1
今日から使えるアンガーマネジメント　ーイライラ怒りの感情と上手に付き合う方法ー	1/20	3
病棟ナースが知っておきたい在宅療養の実際	1/23	4
スタッフナースが取り組む退院支援(WEB)	9/6・7 2/28	3
災害が発生したらどう対応しますか？ ー災害病院における初動対応ー	12/13	3
今日から役立つせん妄ケア ー高齢入院患者のせん妄を防ぐー	12/12	3
フレイル・サルコペニアの視点から考える摂食嚥下ケアーその人らしく生きるためにー（WEB）	10/18	3
知っておきたい認知症看護 1）エビデンスに基づいたケア	9/21	3
知っておきたい認知症看護 2）コミュニケーションと療養環境づくり	10/22	3

研　修　会	開催日	参加者
呼吸器疾患をアセスメントするために知っておきたい知識　COVID-19シリーズ研修(WEB)	9/20	3
コロナ禍における糖尿病の療養支援を考える COVID-19シリーズ研修(WEB)	9/5	1
指導者のための看護研究支援のコツ(WEB)	7/21	2
ウィズコロナ社会に対応する新人看護師の育成（WEB）	12/20	2
認知症高齢者の看護実践に必要な知識①（DVD研修）認知症加算研修	8/24・25	1
認知症高齢者の看護実践に必要な知識②（DVD研修）認知症加算研修	11/9・11/10	1
認知症高齢者の看護実践に必要な知識②（DVD研修）認知症加算研修	2/1・2	3
看護職認知症対応力向上研修①認知症加算研修	6/7～6/9	2
看護職認知症対応力向上研修②認知症加算研修	1/25～1/27	2
看護管理者のためのCOVID-19に関連したメンタルヘルスケア	7/24	1
人材育成のためのクリニカルラダーの活用方法 ースタッフのキャリア支援につなげるー（WEB）	10/27	2
主任のための役割講座(WEB)	6/29・30	2
令和4年度入会会員研修（WEB）	5/16～5/18 5/30～5/31	30
令和4年度ファーストレベルⅡ期フォローアップ研修	2/10	1

2. 日本看護協会主催研修

研　修　会	開催日	参加者
感染リスクの低減に必要な知識と対策(Zoom)	7/7	1
高齢者の"いつもと違う"を看護に活かす③～夜、眠れない高齢者～（Zoom）	9/15	1
看護師長のレジリエンス強化ー環境変化への即応力と柔軟性ー（Zoom）	6/29	1
主任のための組織管理入門ー自部署の問題を組織管理の視点で考える（1回目開催）	7/27	2
コロナ禍における複合災害等の備え	9/7	1
主任のための組織管理入門ー自部署の問題を組織管理の視点で考える（2回目開催）	12/9	1
研修での学びと実践をつなぐ指導者のための研修	7/13	1

3. その他研修

研　修　会	開催日	参加者
県立病院看護部師長研修（2～4年目）	10/29	2
県立病院看護部師長研修（5～9年目） ＊1回目WEB、2回目集合	7/26・11/5	3
県立病院看護部部長・次長研修(WEB)	1/21	4
全国自治体自治体病院協議会 看護補助体制指導者養成研修（WEB）	10/31 11/1	4 （各2名）
診療報酬・介護報酬の方向性を学ぶ -2023年配信版-（オンデマンド）	12/20～6/20	12

学　　会	開催日	参加者
兵庫県看護協会定時総会（神戸）*WEB	6/16	2
兵庫県看護協会職能集会（神戸）*WEB	6/16	4
県立病院学会	9/3	2
日本手術看護学会年次大会（名古屋） ※オンデマンド配信	11/4・5	1
日本リハビリテーション看護学会 学術大会 (愛知)　＊オンデマンド配信	11/21～12/20	3
回復期リハビリテーション病棟協会　研究大会（岡山） ＊オンライン併用）	2/24・25	2

その他 ・ 研　修　会	開催日	参加者
BLSヘルケアプロバイダーコース	5/31 6/22・6/29	3
ACLSヘルケアプロバイダーコース	6/18	1

令和5年度看護部新任職員中央オリエンテーション実績

月日	研修テーマ	ねらい	参加数	評価	講師
4月6日（水）	リスクマネジメント 救急対応教育	中央病院の救急コードを理解する。 CPRの基本とAEDの使用方法を理解する。	22	コードQQのかけ方、CPR及びAEDの使用方法を実践した	救急教育チーム
4月10日（月）	リスクマネジメント 感染対策 スタンダードプリコーション	医療職として必要な感染対策の基本を理解する。	22	手指衛生の方法を講義と実技で学び、自己の手指衛生の手技や効果を振り返ることで、改善点に気づき効果的な方法を考えることができた。また、標準予防策及び個人防護具の適切な使用への理解が深まった。	ICT
4月11日（火）	電子カルテ操作練習 (OJT)	基本的な電子カルテの操作方法がわかる。 カルテ記載上の注意点がわかる。	22	電子カルテの基本的な操作説明及び実技練習を行い、勤務場所で安全に電子カルテを使用できるよう学習の場を設けた。 講義資料・手技チェックリストを用いて各部署単位で実施した。	師長補佐 各部署
4月12日（水）	リスクマネジメント 医療安全について	医療の不安全性と不確実性を理解する。 インシデント・オカレンス報告及び医療事故発生時の対応を理解する。	22	医療安全関連の経緯、インフォームド・コンセントの重要性、インシデント報告の意義と方法、医療者の心得10か条について学んだ。	こどものリハビリテーション・睡眠・発達医療センター長
	日常生活の援助技術 更衣 (OJT)	更衣が必要な状態や疾患、障害を理解できる。 更衣の介助の実際がわかる。	22	更衣が必要な状態や疾患、障害を理解することができた。リハビリテーション病院における基本的な更衣の介助方法がわかった。 講義資料・手技チェックリストを用いて各部署単位で実施した。	師長補佐 主任
	当院における記録の実際	看護記録について、基本的な知識が理解できる。 当院の看護記録についての基本がわかる。	22	看護記録とは、看護実践の方法と記録の書き方、看護記録の構成要素、記録上の注意点について学んだ。	記録委員
	報告って何をどうするの？	報告の基本について理解できる。 実践場面での活用方法について理解できる。 報告のツール（SBAR）がわかる。	22	報告の基本である「報告・連絡・相談」が理解でき、実践場面で活用できるように、SBARの視点を持って報告することを学んだ。	
4月13日（木）	日常生活の援助技術 おむつ・尿便器のあて方 浣腸・導尿	排泄の介助が必要な状態や疾患、障害を理解できる。 安全安楽な排泄ケアの実際がわかる。	22	排泄援助の必要な状態や疾患、障害を理解することができた。安全・安楽な援助方法を学び、演習を通して排泄ケアの実際がわかった。	皮膚・排泄ケア認定看護師 おむつフィッター
	リハビリ看護の専門性を語る① 皮膚・排泄ケア認定看護師	褥瘡予防や排泄ケアの看護について基本的な考え方が理解できる。 当院における認定看護師の役割・活動がわかる。	22	認定看護師の役割、排泄における看護、褥瘡リスク、除圧とスキンケア、褥瘡回診等チームアプローチについて事例を交え学んだ。	皮膚・排泄ケア認定看護師
	日常生活の援助技術④ 体位変換・移動	体位変換、移乗移動が必要な状態や疾患、障害を理解できる。 ボディメカニクスの原理原則を理解し、応用することができる。 移乗・移動時の転倒転落防止策がわかる。	22	体位変換・車いす移乗・移動の基本的な介助方法を理解できた。ボディメカニクスの原理・原則を理解し体位変換や移乗の介助に応用する方法を学んだ。 自部署で講義を視聴後、2グループ制で集合研修を実施した。	師長補佐 主任
4月14日（金）	看護技術 酸素吸入 血糖側定 （OJT）	酸素吸入、血糖測定が必要な状態や疾患、障害を理解できる。 酸素吸入・血糖測定の必要物品と手技の実際がわかる。	20	鼻腔カニューレ・マスクによる酸素吸入の方法及び患者の観察と記録について理解できた。血糖測定では患者の苦痛を最小限にする必要性を学んだ。 講義資料・手技チェックリストを用いて各部署単位で実施した。	師長補佐 各部署
4月14日（金）	日常生活の援助技術 食事と口腔ケア	リハビリテーションにおける食事の意義及び支援が必要な状態や疾患、障害を理解できる。 口腔ケアの目的・方法・物品、歯科とのケア介入について理解できる。	22	口から食べることの意義、嚥下の実際を体験学習し、口腔ケアの重要性を理解することができた。 歯科衛生士によるブラッシング方法やケアの実際を通して、歯科との連携の重要性を学んだ。2グループ制で実施した。	NSTリンクナース 歯科衛生士

4月17日 （月）	看護技術 吸引	吸引が必要な状態や疾患、障害を理解できる。 気管内吸引の手技がわかる。	20	気道分泌物や貯留物を除去して、気道の閉塞・呼吸困難を防ぐことを学んだ。 内視鏡室で吸引の技術を経験した。 密を避けるため3グループに分かれて実施した。	師長補佐 主任
4月18日 （火）	リハビリテーション看護の専門性 ICFの考え方	ICFの基本的な考え方を理解し、当院でのICFにおける看護師の役割がわかる	22	健康と障害の見方・考え方、ノーマライゼーション、出来る事をプラスの視点で考えることを学んだ。	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 回復期rリハビリテーション認定看護師
	リハビリテーション看護の専門性 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	脳卒中リハ看護について基本的な考え方が理解できる。当院における認定看護師の役割・活動がわかる。	22	リハビリ看護を実践するスペシャリストとして、脳卒中の病態から、様々な障害に対する看護について講義を受け、リハ看護のやりがいや楽しさを学ぶことができた。	
	看護必要度・日常生活機能評価 FIMについて	看護必要度について理解する。 看護必要度（日常生活機能評価）の記録方法について理解する。 機能的自立度評価法（FIM）について学ぶ。	22	回復期リハビリテーション病棟の機能や看護必要度の理解を深めた。日常生活機能評価項目及び評価の仕方を学んだ。 FIMについて他職種と共に評価の一部を実施することができた。	
4月21日 （金）	リハビリ看護の実際・ 先輩看護師から	先輩看護師の話を聞くことで、看護師として働く自分がイメージできる。 看護師として働くことの不安を解消できる。	20	経験2～5年目先輩看護師の体験を聞き、これからの自分をイメージできた。新人は知識不足から不安が大きいが、責任をもって業務ができるようになり、努力することで成長できたと聞き、頑張ろうという気持ちになったとの意見があった。	中堅看護師 師長補佐
	思いを言葉にのせて ～こんな看護師になりたい！～	新任職員中央オリエンテーションを通して学んだことを共有する。 これからの自分の看護を考えるきっかけとする。	20	グループワークで「こんな看護師になりたい」を模造紙に書き、決意表明できた。言語化することで看護師像をイメージでき、お互いの目標を共有することで良い刺激になっていた。	師長補佐

看護部師長補佐会　令和4年度新任看護師教育研修会実績

令和4年度は看護部新任職員内訳新卒新人30名・既卒新人1名であった。

対象者		日時	参加人数	ねらい	講師	研修方法	研修内容
新人看護職員研修	＜診療・治療に係わる技術＞静脈採血	5月13日	30名	真空管ホルダーを使用し静脈血採血の手順を理解し安全に採血できる	阿部 松本 信濃	講義 演習	自部署でパワーポイント・動画視聴 演習
	評価	1グループ（10名）1時間の3部制で実施。1時間の演習は時間がギリギリであった。少数の方が講師の目は行き届きやすく良い。採血針のセーフタッチの機構やキャップの開け方などの練習やイメージトレーニングを行ったことで、テストブラッドキットの練習がスムーズだった。迷走神経反射の既往などの聞き取りをしている方がよい。針刺し事故無く演習を終えることが出来た。					
	＜診療・治療に関わる技術＞ 薬の見方	5月20日	29名	看護師の役割りを果たすために安全かつ確実に薬物療法を行うための知識・技術を持って、与薬の援助を行う事が出来る。当院での基本的な内服薬の与薬準備ができる。	得平 米分	講義・ 演習	講義 演習
	評価	夜勤での与薬準備を想定した講義と演習を行った。与薬準備は指差し呼称で行うことを強調した。 実際に病棟で使用している与薬ボックスを３新から借用し、模擬の薬（薬をコピーした紙）を処方箋を見ながら準備した。 参加者はセットミスにも気づき、リーダーに伝えることも認識することができた。					
	＜安全管理＞ 夜勤に向けての 説明会	5月20日	29名	当院の夜勤前後の流れ、諸注意を知ることで夜勤のイメージが出来る。夜勤に向けて、健康・安全・生活に及ぼす影響を知り、自己の健康管理が出来る。	得平 米分	講義	講義
	評価	前年度まで行っていた2交代と3交代に分かれての見学は行わなかった。勤務表の見方はクイズ形式で説明し、理解出来ていた。 担当者２名とも２交代と３交代を経験しているため、２交代と３交代の時の夜勤前の寝る時間など実際の過ごし方を話した。 参加者からは自分の健康管理がいかに大事かを学べたとの感想があった。					
	＜情報管理＞ 記録・電子カルテについて	5月27日	31名	当院での看護記録について理解できる フォーカスチャーティングの基本を理解し状況に応じた記録の記載ができる	米分 木原	講義・Gw	講義「フォーカスチャーティングについて」 整形系、内科系に分かれて事例を用いてグループワーク
	評価	5月27日時点ではまだ記録を行っていない病棟があり、講義やグループワークについていけなかったという意見があった。一方、もっと早い時期に記録の研修をしてほしかったとの意見もあった。 適切でない表現を具体的な例を用いて説明があり分かりやすかった、A、A/P、P/Aの違いがよくわかった、フォーカスの各内容に困っていたが研修で再確認できとても勉強になった、などの意見があった。					
	＜診療・治療に関わる技術＞ 点滴静脈注射の管理	6月1日	30名	留置針を留置している患者の点滴静脈注射を看護師が安全に実施できるよう、知識・技術を習得できる 留置針を留置し、点滴注射を受ける患者に安全・安楽な看護の提供ができる。	得平・高瀬	講義・ 演習	・講義は事前に各自で視聴 ・3Gに分かれてDVD視聴と演習を実施（3EWN/4EW/5EW）
	評価	講義は集合ではなく、講義用のパワーポイントに音声をいれたものを事前視聴とした。事前視聴したこともあり、１グループ1時間内で実施できた。 どのグループも積極的に演習に参加できており、知識・技術の理解につながったと思われるが、OJTでさらに知識・技術を確認し深めていくように関わる。 実際に機材に触れて演習ができたのでよかった、事前課題をもう少し早めに知りたかったとの意見があった。					
	＜診療・治療に関わる技術＞ 医療機器の取り扱い－心電図モニター－	6月17日	30名	心電図モニターを使用する目的を知り、操作方法が分かる。	業者：日本光電2人（繁田）	講義・ 実技	・業者からの講義 ・病棟でDVD視聴のあと実技（チェックリストに沿ってモニター操作を行う）
	評価	開始10分から居眠りしている人がいた。 基本的操作、アラームの種類、緊急度等、講義とDVD視聴により知識を深め、実技をできたことが効果的であった。しかし、チェックリストに沿ってOJTで実技を実施したがどのような指導をしたか詳細は確認不十分である。 OJTで実施することで、実際に今後使用していく機器に触れることができてよかったとの意見があった。					

新人看護職員研修	＜診療・治療に関わる技術＞ －輸液ポンプ・シリンジポンプ－	7月1日	30名	輸液ポンプ、シリンジポンプの操作手順を理解する。 輸液ポンプ、シリンジポンプを適切に使用できる。	業者：テルモ2人 （繁田・OP南・高瀬）	講義・実技	業者からの講義と実技研修を実施
	評価	6グループに分け演習を実施。業者より各グループに1人の担当依頼があり、急遽OPE室から主査に参加してもらった。 例年は講義/演習を項目ごとに行っていたが、今年は全ての講義の後で演習を行ったが、特に問題はなかった。 しっかりと機器に触れる時間があったので勉強になった、様々なリスクや患者への影響や怖さがわかり、実践では気をつけて取り扱いたいとの意見があり、導入という目的での今回の研修は目標を達成できた。 シリンジポンプは使用しない病棟も多く、月1回の作動確認時を新任が行い、機器に触れる機会を作っていく。					
	＜診療・治療に関わる技術＞ 薬剤について	7月6日	30名	薬剤部長の講義を通して、薬剤に対する知識を深める 事例を通して、与薬の基本を再確認できる	米田薬剤部長 松本	講義 グループワーク	米田薬剤部長の講義の後、ヒヤリハットが出やすい事例・処方箋を用いたグループワークを実施
	評価	講義では当院で取り扱っている薬剤の基本的な知識・管理方法について学んだ。 グループワークでは持参薬指示・不均等内服・曜日指定の薬剤があると初めて知った参加者もおり、研修内容が難しかったという意見もあった。しかし、定期処方・臨時処方・持参薬指示の違い・ヒヤリハットが起こりやすい事例を共有することで、与薬業務における確認作業の重要性について理解を深めることができた。					
	＜研修の振り返り・フォローアップ＞ 3か月の振り返り	7月20日	29名 （欠席１名）	看護師として3ヶ月間振り返る 仲間との交流を通して心のリフレッシュができエンパワーメントする機会とする	繁田・得平	グループワーク	4月の「こんな看護師になりたい」と同じグループに分かれてグループワーク
	評価	自分が成長したところにも目を向けられ１人じゃないと思った、同期の顔を見て安心できた、励ましあい頑張っていこうと話せた、今回の研修のように同期で話し合うことでリフレッシュできるので自分たちでもこのような機会を設けたい、プリセプターからの手紙がうれしかった、など参加者からの感想があった。 グループ内で打ち解けあえるようアイスブレイクを取り入れた。人数が昨年より多く時間配分を考慮し、「〇〇ができるようになりました」は各グループ内での発表とし、プリセプターからの手紙は係で手分けして渡した。					
	＜日常生活援助に関する技術＞ 移乗・移動介助技術（公開講座①）	9月7日	28名	移乗・移動の介助技術を学ぶ。移乗・移動の介助技術を日常の看護に活かすことが出来る。	代田　琴子（PT） （東）	講義・実技	理学療法士からの講義を行いながら、実習も行う。
	評価	2グループ分けて実施した。物品は床走行式リフターを2台4階西・5階東から拝借した。 演習時間が予定の1時間を5分程度過ぎてしまい、次のグループを待機させてしまった。 演習時、男性スタッフは男性スタッフ同士で行えるように配慮した。 演習時、4台ベッドに講師・担当の3名で対応していた為、進みにグループで差が生じた。 リフターの操作は行えていたが、安全を確保する点から演習時のみ、4名体制が良いと感じた。 アンケートではよく分かった（82%）・大体分かった（18%）と、概ね内容の理解が得られた。					
	＜看護職員として必要な基本姿勢と態度＞ 看護倫理	9月15日	28名	看護倫理の概念が理解できる。 看護実践の中で倫理問題に気がつくことができる。	栗林佑季先生 （米分・高瀬）	講義 グループワーク （オンライン）	看護倫理についての講義。オンラインであったが、短時間でのグループワークも数回あり、講師とのやり取りも行った。
	評価	オンラインであったが、講師から会場への投げかけもあり、活気的な研修ができた。 事前課題の内容を担当補佐が確認し、倫理綱領の項目で同内容ごとにグループわけをしたので、ワークでは同じようなモヤモヤ感で話し合うことができていた。 倫理の問題かがわからいことでもモヤモヤや悩みを感じることが大切と学んでおり、今後の実践で他者に相談・意見を取り入れてチームで関わりたいとの意見もあり、今後に期待したい。					
	＜日常生活援助に関する技術＞ 退院支援・退院調整	10月5日	31名	退院支援・調整の実際がわかる 退院支援看護師の役割がわかる	高瀬・東	講義	当院の退院支援についての講義・グループワーク
	評価	グループを全病棟ミックスで構成した結果、病棟の特性を踏まえた様々な意見が出ていた。 グループワークでは1年目の視点で十分な情報を考えることが出来ていた、加えて必要とされる視点を追加として説明した。今後の看護でさらに視野を広げて患者・家族に添った退院支援ができることを期待したい。					
	＜日常生活援助に関する技術＞ 摂食・嚥下障害看護	10月19日	32名	摂食嚥下障害について理解し、摂食嚥下障害の看護について学び実践に活かす	東、福島、北波、清水、木原、松岡、	講義 演習	摂食嚥下障害についての講義 ポジショニングの演習
	評価	1グループ4名で効果的に実施できた。 枕の持参忘れやクッションも適したものではなかった為、NSTメンバーや補佐がクッションを確認して持参する必要があった。 嚥下障害患者の看護では食事中のむせや、SPO2 の低下、口腔内の清潔等観察して今回の学びを活かしていきたい。との意見があった。					

新人看護職員研修	＜日常生活援助に関する技術＞ 褥瘡予防ケア・フットケア	10月26日	30名	フットケアの必要性を理解し、基本的なアセスメントやケアの方法が分かる 院内でのフットケアへの取り組みを知ることができる	フットケアワーキンググループ （繁田）	講義 演習	フットケアの方法、必要性等について講義 爪切り、やすりの演習
	評価	どのように研修するか（企画書作成の前に）事前打ち合わせは谷口Nsとする。ポスターは今回フットケアチームが作成してくれていたが、新人職員臨床研修のひとつの為、補佐会で作成する。持参物品はポスターに記載があった方がよい。 グループ編成については勤務の都合（担当するスタッフが時間参加の時もある）フットケアチームに任せる。新人のペアリング等は補佐会で決めてもよい。 演習開始時は誘導があった方がスムーズに研修に入っていくことが出来る。					
	＜症状・生体機能管理技術＞ シミュレーション研修	11月16日	26名	患者の訴える症状から必要な観察項目がわかり自分の判断でできる初期対応ができ、先輩看護師に報告ができる	松本 阿部 梅木	シミュレーション研修	講義 ブリーフィング　（導入）20分 シミュレーション（GW）20分 シミュレーション（実施）15分 デブリーフィング　45分 発表　10分
	評価	2部制で2時間ずつ実施した。最初は、何を話し合うべきか困っている様子もあったが、ファシリテーターから声掛けをし、バイタルサインの値の意味するものなど深めることが出来ていた。リフレクションからは、知識不足や情報収集の不足、アセスメントが出来ていないと感じたとの意見が多かった。自分だけでなくグループワークの中で新たな視点に気付けた、またSBARでの報告の必要性を実感していた。 パーテーションによる距離感なども影響しているのか、ほとんど発言できていない参加者もいた。どのように参加を促すか課題である。					
	＜診療・治療に関わる技術＞ 静脈注射（留置針）	12月7日	28名	留置針による静脈注射を安全に実施できるように知識の確認と当院での技術・方法を習得できる	東、得平、宮本、米分	講義 実技	当院での静脈注射の講義・DVDでの学習 デモ機による静脈留置針の留置練習 相互での留置針留置の実技体験学習
	評価	少人数入れ替え制を取り入れ、3グループに分けて午前枠も使用して各1時間30分研修を行った。 事前に音声いりパワーポイントを視聴し、研修に挑むことは実技での時間確保が出来、ゆとりをもって演習が出来た。 オリエンテーション開始時に、針刺しに関する注意喚起を行い、1回の練習時も静脈留置針1本を準備し、不用意に静脈留置針を触ることがないよう行った。1グループ1名の担当にして、安全管理上そのグループに集中することが出来、針刺し事故を起こす事なく研修が出来た。					
	＜研修の振り返り・フォローアップ＞ 1年の振り返り	1月18日	25名 （欠席3名）	自己の看護を振り返り看護観を明確にする 精神的に支え合う仲間づくりを行ない次年度の課題を見出せる	繁田・得平	グループワーク	あしあとを読んだ感想を発表 「こんな看護師になりたい」をGWし発表 各師長からメッセージを渡す
	評価	3か月の振り返り研修と同じグループ分けをする予定だったが、退職者2名、欠席者3名だったため、グループを1つ減らした。 リフレクションからは、同期と話せたことでリフレッシュでき、自分もこれから頑張ろうと思えた、まだ何も出来ていないと思っていたが話し合ううちにできることが増えていることに気付けた、自己学習を深めて2年目に向けて準備していきたい、先輩のおかげで成長できた、より広い視野を持って全体をみて動けるようになりたい、などの感想が参加者からあった。					
実地指導者研修	＜研修の振り返り・フォローアップ＞ 令和4年度 プリセプターフォローアップ研修	8月10日	13名 （欠席3名）	実地指導者としての指導を振り返る 新任職員の指導における課題の共有と解決策の検討ができる	阿部 講師（加藤涼子）	講義 GW	講義 GW①5カ月間の指導を振り返りグループ内で発表する。 ②上手くいったこと、困っていることを話し合い対処法をグループで考える。
	評価	リフレクションから、短い時間ではあったが他のプリセプターと情報共有し共感できる機会があったのはよかった、思いを共有することができ振り返りの良い機会となった、同期の学びが参考になった、今日学んだ事をこれからの実践に活かしていきたい等の意見があった。					
	＜研修の振り返り・フォローアップ＞ 令和4年度 プリセプター研修 振り返り　評価	2月1日	12名 （欠席1名）	実施指導者としての指導を振り返る。新任看護職員指導における課題の共有と解決策の検討が出来る。	阿部 講師(加藤涼子 井村早和)	講義 グループワーク	講義 GW①こんなことがあったけど、こうやって対応した　特に力を入れて頑張ったところ ②自身の関わりの振り返り、印象に残っている事（良かったこと・困ったこと）
	評価	しっかりとグループワークで意見交換出来ていた。振り返りを行い自己の良かった部分の承認や課題の発見など出来ていた。また他者の意見を聞いて、参考になったとの意見もあった。					
	＜実地指導者の育成・支援＞ 令和5年度 プリセプター研修 育成・支援	2月15日	30名	新任看護師の支援において必要な知識の獲得が出来る。	松本 講師（井村早和）	講義 グループワーク	講義と「新人看護師の印象、新人時代に実地指導者に期待したこと」「こんなプリセプターになります」をテーマとしたグループワーク
	評価	新任職員の特徴・効果的な関わり方を学ぶことができた。4名1グループ、4グループに分かれたグループワークでは積極的に意見交換していた。参加者全員がプリセプターとして頑張りたいと発表していた。					